

<2020年度 オリンピック・ムーブメント事業>

# オリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立潮来第二中学校

Olympic  
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和2年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン(オリンピック出場経験アスリート)  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2020年4月～2021年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目  
運動の時間(50分)



2コマ目  
座学の時間(50分)



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1コマ目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

## 2コマ目

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」  
等を伝える



個人またはグループワーク  
で話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

#### ●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間・座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。



# 実施内容

- 期 日 : 2020年12月9日(水)
- ク ラ ス : 2年1組(30名)、2年2組(30名)
- オリンピアン : 須佐 勝明 先生(ボクシング)【出場オリンピック/ロンドン大会】
- 授業のながれ: 運動の時間 ( 時限)
  - ・自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・自己紹介の後、オリンピックは出場した選手だけのものではなく、オリンピックの先にあるものがオリンピックバリューであると話す。3つの価値の意味は「エクセレンス」=卓越、努力する、目標を持つ、ベストを尽くす。「フレンドシップ」=友情、仲間を大切にする。「リスペクト」=尊敬、感謝の気持ち。運動の時間でこの3つのオリンピックバリューを感じてもらいたいので、この言葉を覚えておいて欲しいと伝え、準備運動に移る。

## ・主運動 等



・準備体操では体育館をランニング、ストレッチを行った後、新聞じゃんけんバランスを実施。広げた新聞紙の上に立ち、先生とじゃんけんをして負けた人は半分に新聞紙を折り、その上に立ち、片足でも立っていられなくなったらその場に座る。最後に一人だけ残り、皆で拍手を贈り、主運動に移る。



・主運動はパス回しリレーを実施。バスケットボール、バレーボール、テニスボール、卓球ボールの大きさも重さも違う4つのボールを順番に渡す。また、ボールを落とした場合は、その都度全員でバーピージャンプを行う。対戦するごとにチームワークが良くなり、チームで工夫しながらできたことは、オリンピックバリューに繋がると話し、座学の時間では、この運動の時間を振り返り、思い出しながら次に繋げて欲しいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（時限）

- ・自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スライドを使い、自己紹介と運動の時間に話したオリンピックバリューについて詳しく説明すると、授業の目的を確認。近代オリンピックは各競技の世界一を決めること、スポーツを通じて人間性を育むことの2つを目的に、クーベルタンによって創設された。豊かな人間性を育む上で大切な価値が、オリンピックバリューであると話す。

- ・個人ワーク～グループワーク 等



- ・個人ワーク発問：運動の時間で感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。  
 エクセレンス：「チームが負けていても最後まで諦めずに全力で取り組んだ」等、フレンドシップ：「相手が取りやすいボールを投げる」等、リスペクト：「失敗しても責めない」等
- ・グループワーク発問：実力テストに向けてオリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。  
 エクセレンス：「テスト用紙の空欄をなるべく作らない」等、フレンドシップ：「わからないところを教えあう」等、リスペクト：「カンニングしない」等



・3つのオリンピックバリューの中でも特に意識して欲しいことはフレンドシップであり、先生はオリンピックを目前にして気持ちが後ろ向きになった時期があったが、周りの人の意見を聞くことで、負けない気持ちを作ることができた。皆も友達や先生、家族等、色々な人から情報を得て、進路を考えたり、悩みを解決したりすることに役立てて欲しいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



■ 修了証贈呈

